様式第６号(第２条関係)

委員会等の会議録

<table>
<tr><td>1　会議名</td><td colspan="2">第 11 回愛南町海業推進会議</td></tr>
<tr><td>2　議題</td><td colspan="2">愛南町の海業の推進について</td></tr>
<tr><td>3　開催日時</td><td colspan="2">令和８年８月７日（金）　14 時 30 分から 16 時 00 分まで</td></tr>
<tr><td>4　開催場所</td><td colspan="2">愛南町役場本庁３階　大会議室</td></tr>
<tr><td>5　傍聴者数</td><td colspan="2">１名</td></tr>
<tr><td colspan="3">出席者</td></tr>
<tr><td>6　委員氏名</td><td colspan="2">稲田　塁、井上　香里、浦崎　慎太郎、加洲　景、栗林　賢一、
秦泉寺　孝一、澤近　圭亮、関根　麻里、永元　将博、
濱本　涼、藤田　有紀、前田　眞、宮脇、司、森　裕之、
若木　瑞</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7　担当所属</td><td>所属名</td><td>海業振興課</td></tr>
<tr><td>担当職員
(職・氏名)</td><td>主幹　尾﨑　光弘
係長　広瀬　琢磨
係長　加藤　健太郎
主査　大野　孝耀
主事　辻田　竜泰郎
主事　小山　絵凪
地域おこし協力隊　西村　健
一般社団法人 Umidas　清水　陽介</td></tr>
<tr><td colspan="2">8　その他の出席者</td><td>愛南町長　中村　維伯
漁港漁場漁村総合研究所　伊藤氏
高階氏(オンライン)
愛媛県庁漁港課　野村主幹
青野係長(オンライン)
愛媛県庁南予地方局愛南水産課　黒野課長
水産庁計画・海業政策課　賀屋係員(オンライン)</td></tr>
<tr><td colspan="3">議事内容(次ページから)</td></tr>
</table>

発言者	発言内容
大野主査	定刻になりましたので、ただいまより、第 11 回愛南町海業推進会議を開会させていただきます。 本日の司会を務めさせていただきます、海業振興課の大野です。よろしくお願いします。 開会に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。愛南町海業推進会議次第、資料１「前回までの海業推進会議について」、資料２「各プロジェクトの進捗について」、資料３「海業推進会議運営委員会議事概要」、資料４「海業に関する意見交換について」、資料５「漁村総研説明資料」、令和８年度海業振興課フライヤー、個人情報が含まれるため関係者の方のみの配付になりますが、愛南町海業推進会議委員名簿、アンケート調査への協力依頼になります。全てお手元にお揃いでしょうか。不足がありましたらお知らせください。 それでは、開会にあたり愛南町長　中村維伯より御挨拶申し上げます。
中村町長	（開会挨拶）
大野主査	中村町長、ありがとうございました。 議事に入る前に、本日欠席の連絡を、凝地委員、後藤委員、澤近幹人委員、高橋委員、田中委員、深堀委員、ヤング委員の７名から頂いておりますので、御報告いたします。そして、今年度は委員が改選となり、初めての会議となりますので、御出席の皆様から一言ずつ御挨拶をお願いいたします。それでは初めに名簿の番号を言っていただき、前田委員より御挨拶をお願いします。なお、順序は時計回りでお願いいたします。
前田委員	愛媛大学から来ました前田と言います。この会議については当初から関わらせていただいています。また皆さんと一緒に勉強できたらいいかなと思いますのでよろしくお願いします。
若木委員	若木真珠の若木瑞と申します。御荘湾で、親世代、私、息子と３代にわたって真珠の養殖に携わっております。そしてまた、真珠の魅力と愛南町を知ってもらうため、御荘湾で育てた真珠を使ってのアクセサリー作り体験を行って、かれこれ 20 年になります。遠方からいらっしゃるお客様には、なるべく愛南町を回ってほしいと思い、おすすめランチや名所見学などをお話ししております。地道に活動してきたことが最近ようやく実ってきたかなと感じております。お手隙の時間がありましたら、また若木真珠のホームページや Google の口コミなど見ていただけたら有り難いです。また、今日こうやって若い方と一緒に勉強できることを感謝しております。よろしくお願いしま

発言者	発言内容
	す。
井上委員	井上と申します。私は移住コーディネーターを愛南町の企画財政課でしておりまして、愛南町の魅力をお伝えしていくということを主眼に、愛南町の活動に参加させていただいております。その中で、もっと人を呼びたいということで、話を聞いていると「空港から遠い」ということで、松山空港からカーシェアを用意いたしまして、２日間借りても 3,300 円とか、格安で愛南町に来られるよう準備をさせていただいております。また、移住を考える方の中には車を持っていらっしゃらない方も多かったので、そういった方には車を買うまでの間ですが、町内は１日 1,000 円で貸しますよという活動もしております。今は車という方面で移住を考えられている方の活動を支えてはいるのですが、今回、海業からお誘いいただきまして、新たな切り口があるのではないかなと思って楽しみにしております。よろしくお願いいたします。
濱本委員	久良漁協の濱本と申します。海業を立ち上げてから、初期からいますが、なかなか力になれることも難しくて、力になれるかどうか分かりませんけど、頑張っていきますのでよろしくお願いします。
稲田委員	マルエムフルーツアイランドの生産部長の稲田と申します。マルエムフルーツアイランドは、河内晩柑を中心に作っている自営の組織で、柑橘栽培と海でカキ養殖もしています。両方をやっているということで、海業でも力になれればなと思います。よろしくお願いします。
浦崎委員	愛南町の中浦で真珠養殖をしています浦崎です。真珠養殖の前は役場職員で、始めてやっと 10 年目で真珠に大分慣れてきたところです。力になれるかどうか分かりませんが、よろしくお願いします。
森委員	森と申します。緑地域で「カイタク舎」という体験型の宿泊施設を運営しています。交流人口、関係人口を起点に地域の皆さんと一緒に地域創生に取り組んでおります。引き続きよろしくお願いいたします。
永元委員	永元商店の永元と申します。海産物をメインとした食品業を営んでおります。少しでもお力になれればと思いますので、よろしくお願いいたします。
栗林委員	皆様こんにちは。愛媛 CATV の栗林と申します。私どもは松山

発言者	発言内容
	に本社がございまして、この愛南地域で 2011 年の４月からケーブルテレビ事業を開始いたしました。今年で開局 15 周年を迎えておりまして、この 12 月には開局記念イベントなども予定をしております。町内の方、９割の方にケーブルテレビに加入いただいておりまして、動画のメディアとして町内の情報発信に日々取り組んでおります。また、松山エリアが本社でございますので、松山エリア、県内９局のケーブルテレビでの放映を通して、交流人口の拡大等にもお役に立てればと思っております。ケーブルテレビのみならず、インターネット、スマートフォン、携帯事業と地域の情報通信インフラとしてなくてはならない存在になれますよう、これからも愛南の皆様のお役に立てるように頑張っていきたいと思います。海業のこちらの内容についても広く町内外に発信していきたいというふうに思っております。ぜひよろしくお願いいたします。
宮脇委員	宮脇と申します。役場の建設課に勤務しております。業務内容としては、漁港の維持管理等に携わっています。海業に対して、力を尽くしたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。
澤近委員	愛南漁協の澤近と言います。海業には最初から参加させていただいて、いろいろ皆様との意見交換を続けております。あと「浜プラン」「広域浜プラン」という形で愛南地区の海業に関しても、国や外に向かって発信も同時にやっております。また皆様といろいろ意見を交換しながら、より良いものにしたいと、思いますのでよろしくお願いします。
加洲委員	今年度、南宇和の校長会会長を務めております、城辺中学校の加洲と申します。まずは本当に日頃から、町内の各小中学校が、地域の皆様にいろんな形で教育活動に御協力いただいていて、おかげで子供たちの人材育成、キャリア教育に本当に多大な御貢献をいただいていることを、本当に有り難く思っています。私は学校教育の立場から、この会に参加させていただくので、これからもこれまでと同じように地域の皆様との関わりを繋げ深めながら、子供たちの学びとか地域の活性化に少しでも尽くせるように努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
秦泉寺委員	南宇和金融協会会長の秦泉寺と申します。私自身は伊予銀行愛南支店の支店長もしておりますが、南宇和金融協会としては、愛媛銀行さん、宇和島信金さんと連携してやっておりますので、金融面で何かお手伝いするようなことがありましたら、金融面だけでなく、我々が持っている情報だったり知識だった

発言者	発言内容
	り、そういうのを生かしてお手伝いできればと思っていますので、よろしくお願いします。
関根委員	一般社団法人 Umidas の関根です。今年度から中井さんが加入していただいて、Umidas では今３人で活動しています。地域づくりもするのですけれども、最近は愛南町のぎょしょく教育の体験を、旅行会社や、外から来た方に有償で、ツアーを体験していただくなど、お金を稼ぐというところも本年度動き始めています。今までは皆様にお願いばかりしていたんですが、最近は商工会さんやマルエムさん、社員の方たちに少しずつですけれども、外の方に販売したものを「お金」で還元、戻せるようにはなってきているので、そういうところを少しずつですけれども、今年度着実に増やしていきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。
藤田課長	愛南町役場海業振興課の課長をしております藤田といいます。よろしくお願いします。昨年まで「海業推進室」ということで「室」であったのですが、この令和８月４月１日より「海業振興課」として新たな組織の改革となりました。海業として、日本のみならず世界までにも発信していけたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いします。
中村町長	中村です。先ほどちょうど、出張先の東京から帰ってきました。家まで帰って、家の前がちょうど海ですけど、やっぱり海は見たいなと思って。来る前に見たら「やっぱり綺麗な海やな」と思ってここにやってきました。よろしくお願いします。
大野主査	ありがとうございました。 また、本町が「海業実装推進委託業務」を締結しております一般財団法人　漁港漁場漁村総合研究所から高階様にお越しいただいております。なお、伊藤様はオンラインにて参加していただいております。 そして、愛媛県庁から漁港課　青野係長、愛南水産課からは黒野課長にお越しいただいております。なお、野村主幹はオンラインにて参加していただいております。 そして、水産庁計画・海業政策課 海業・利用調整班 利用調整係より賀屋係員が、オンラインでの参加となっています。 以上で紹介を終わります。 本日は全体が公開会議となっております。 また、事務局において議事録等作成のため、会終了まで録音を行いますので御了承のほどお願いいたします。 なお、委員の皆様におかれましては、何か御意見・質疑等が

発言者	発言内容
	ありましたら、挙手をお願いいたします。質疑の際には、各テーブルに設置していますマイクを使用していただき、ボタンを押して名前を言ってから発言していただきますようお願いいたします。 　それでは、議事に入りたいと思います。ここから先は、懇話会設置要綱の規定により、議長を海業振興課の藤田課長に引き継ぎますので、よろしくお願いいたします。
藤田課長	本日は委員の皆様におかれましては、お忙しいところ本会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。要綱の規定に基づきまして、本会議の議長を務めさせていただきます、海業振興課長の藤田です。よろしくお願いいたします。進行等でいろいろ皆様に御迷惑をおかけするかと思いますが、よろしくお願いいたします。委員の皆様の御協力によりまして、この会議が成り立ちますので、よろしくお願いいたします。 　それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。議題１「前回までの海業推進会議等について」、事務局からの説明をお願いいたします。
尾﨑主幹	本日事務局を務めます、海業振興課主幹の尾﨑です。よろしくお願いいたします。 　それでは、まず資料１を準備ください。４年目を迎えました海業の取組について、立上げ当初から御紹介させていただきます。まず１枚目「これまでの取組」になります。全体の動き、海業推進会議、各プロジェクトなどということでお知らせさせていただきます。まず、令和５年の全体の動きとして、書いてある通りになりますが、３月に水産庁の「海業振興モデル地区」に選定されております。この事業の選定地区は 12 地区となっておりました。これを契機に、４月に水産課に海業推進室を設置しております。続き、７月に本会議であります「愛南町海業推進会議」を発足しており、１回目の会議を開催いたしました。次に、令和５年は海業推進会議を３回、自由な意見交換等を行う「スピンオフ会」を 10 月に開催しております。各プロジェクトの動きについてですが、四国で初めて 12 月に Ｊブルークレジット®認証を取得しております。 　次に令和６年の動きになります。「成り行きの未来から成りたい未来へ」というスローガンの下、多種多様な業種の皆様方と議論を交わしてきました。その後の資料にもありますが、全体会のメンバー25名はいろんな業種から集まっていただいております。この人たちは「自分たちが未来を目指すとしたらどうしたらいいか」ということをゼロから投げかけ、議論をしていただきました。また、推進会議以外でもこの表にありますように、運営委員会、スピンオフ会といった意見交換も 20 回以上

発言者	発言内容
	行いました。この多くの会議を重ねた結果、海業推進会議を発足後、約１年の議論を終えて、令和６年３月に、資料にありますとおり「愛南町海業グランドデザイン」を策定・公表いたしました。この時の海業推進会議は３回、スピンオフ会を１回開催した記憶があるかと思いますが、あわせてグランドデザインの紹介動画も公表しております。また、先進地視察では岩手県大槌町と田野畑村を訪れて、海業について理解を深めております。 令和６年の時点で水産庁の「海業に取り組む地区」の公表数は 54 地区でしたが、令和８年４月現在では、全国で 110 地区が海業に取り組む地区となっております。12月には、海業中間支援法人設立準備委員会を発足し、Umidas(ウミダス)設立に向け協議を重ねました。各プロジェクトの動きとしては、この年は「青春満喫スタンプラリー」をプロジェクトの一環として実施いたしております。次に「ぎょしょく 20 周年事業」として、町内の小中学生を対象に、西海観光船さんへお願いし、海のアクティビティを体験できるイベントも開催しております。また、８月には本委員の委員であります後藤委員が、伊予銀ビジネスコンテストにて最優秀賞を受賞されております。続く９月には２回、11月には１回、ぎょしょくツーリズムモニターツアーを実施し、久留米大学や愛媛大学、そして松山大学マダイ応援隊の皆様に対応をいたしております。 次に令和７年の全体の動きとしては、先ほど申し上げました準備委員会を経て、３月に「一般社団法人Umidas」を設立いたしました。この年の推進会議は２回開催しております。 各プロジェクトについてですが、１月にＪブルークレジット®認証を、最初に申請してからの5.8倍の量で再取得しております。詳しい数値については後の資料にございますので、ここでは割愛させていただきます。３月には「ウニッコリー」のモニター体験ツアーを開催しております。 次に、令和８年、今年度の動きとしては、１月にぎょしょくツーリズムモニターツアーを実施し、３月に海業推進会議を実施しております。なお、本年４月から、先ほど課長も申し上げましたが、「海業推進室」から「海業振興課」へと組織改編しております。 次に海業推進会議について説明いたしますので、１ページお開きください。本会議は「成り行きの未来から成りたい未来へ」をスローガンに掲げ、多主体連携による自律的な取組の創発を基本理念として設立された組織となります。主な協議事項としては、１番目「海や漁村の魅力を生かした事業計画の策定や推進」、２番目「関係団体や組織の連携強化」、３番目「海業を担う人材の育成」の３点を柱としております。委員構成におきましては、水産・漁業関係者にとどまらず、農林業、飲

発言者	発言内容
	食、販売、観光、宿泊、教育、金融、メディア、地域おこし協力隊など、多様な 13 分野から最大で 25 名の委員を選任することとなっており、今年度は 23 名の委員になっており、幅広い視点から議論を行っていただきます。また、水産庁や愛媛県、町役場の関係各課もオブザーバーとして強力にバックアップをいただいております。体制としましては、公開形式の全体会に加え、自薦・他選による委員と事務局で構成する運営委員会を適宜開催し、機動的な意思決定と調整を行っております。スケジュール図にございますとおり、グランドデザイン策定後も定期的にフォローアップや計画の見直しを実施しており、持続可能な地域づくりのための試行錯誤を重ねております。以上、前回までの海業推進会議の説明といたします。よろしくお願いします。
藤田課長	ありがとうございました。事務局の説明が終わりました。議題１の説明につきまして、御質問、御意見等ありましたらお願いいたします。マイクのスイッチをオンにして、お名前を発言してからお願いいたします。いかがでしょうか。初めての方もいらっしゃいますし、ずっとおられる方は今までの振り返りということになったかと思いますが、御質問等ございませんか。
一同	（質問なし）
藤田課長	ないようでしたら、次に議題２「愛南町海業グランドデザインの進捗報告」を議題といたします。進捗報告および本年度以降の動きについて、事務局より説明をお願いいたします。その後、各プロジェクト主体の委員および事務局から報告を行っていただきます。それでは、よろしくお願いします。
尾﨑主幹	それではグランドデザインの進捗につきまして御報告いたします。１枚めくってください。資料２の「愛南海業コンシェルジュ Umidas プロジェクト」になります。進捗については、ぎょしょく体験プログラムの構築、実装、町への PR 活動、情報発信、先進地視察など、年々進んでおります。現状と課題については、令和７年度は郷土料理教室を、令和８年度は「ウニッコリー体験」や「市場(食堂)見学」など、３件の実装を予定しており、着実に拡充を進めております。また、愛媛大学等の学生フィールドワークやゼミ合宿の受入れ、先進地視察や研修会の参加を通じてスキルの向上とガイド人材の育成を図っております。課題につきましては、体験提供者の実績作り、ガイド人材や情報発信の不足、役割分担の明瞭化が挙げられます。次に、ここを踏まえて協力していただきたいことについては、プレイヤーやガイドなど人的支援及び地域発案の海業事業への協

発言者	発言内容
	力支援体制の構築をお願いいたします。対策としては、地域おこし協力隊との連携やメディアの活用、愛媛県事業を通じた伴走支援、町内イベント「産業祭り」などの企画を進めてまいります。事務局からは以上です。主体より補足をお願いします。
清水氏(一般社団法人Umidas)	Umidasの清水と申します。私は現在、役場の海業振興課から派遣という形で、Umidasで仕事をさせてもらっています。補足させていただきますと、Umidasは皆さんが主体となってやっているいろいろな海業を支える「中間支援組織」として立ち上がりました。昨年は「ぎょしょく体験」を軸としたコンテンツを町外の人に提供することを中心にやってまいりました。少しずつその輪が広がり、冒頭に町長の挨拶にもありましたが、石川県珠洲市の復興イベントに参加させてもらいました。その際、マルエムさんの美生柑と美生柑ジュースを持って行ったのですが、ものすごい勢いで売れまして、本当に支えられたなという思いです。現地の道の駅などにも、ジュースや「冷や汁の素」を置かせてもらえるようになっています。海業を通じて他の地域と繋がりを持てたらなと思っております。今は観光がメインになっていますが、この会議に集まっている多様な業種の方々一人一人が主役となって事業を展開できるよう、それを支える体制を作っていきたいです。一つやってみたいのが、町内向けのイベントです。冬や春に合わせて、水産物と農産物を一緒にした「産業祭り」のようなことができたらなと思っております。以上です。
尾﨑主幹	続きまして「インバウンド！AINAN ツアー生成プロジェクト」になります。私から簡単に説明いたします。現状と課題ですが、現在は事業主体では従業員５名、繁忙期７名から８名体制で運営していると聞いております。令和７年度は国内需要が非常に好調で、特に「シーウォーカー」が高い評価を得たそうです。令和８年度も海底が見える船やダイビング、サップなど既存サービスに注力していくそうです。また「グリーンフィンズ認証」の継続取得や、ふるさと納税返礼品としての「海底熟成ワイン」の出荷も定着しつつあります。課題、対策、協力依頼については資金及び人材の不足だそうです。対策として関係人口の拡大や役場との方向性の共有、SNS 発信を増やしていくそうです。皆様には、町内各事業主体との横の繋がりの強化に御協力をお願いしたいとのことです。調査を行った漁港漁場漁村総合研究所さん、追加はありますか。
高階氏(漁港漁場漁村総合研究所)	高階と申します。事業主体である西海観光船さんへヒアリングさせていただきましたので補足します。西海観光船さんでは既存で海底が見える船やダイビング、シーウォーカー、サッ

発言者	発言内容
	プ、シュノーケルがあり、本日も大変予約が入っており、観光客の需要があるプログラムになっております。今後は過年度と同様ですが Umidas さんと連携し、学生向けや町外の観光客に向けたツアーの造成について、今後とも積極的に取り組んでいくというお話を伺っております。以上です。
尾﨑主幹	ありがとうございました。続きまして「愛南町きらめき海道プロジェクト」になります。本プロジェクトは昨年度の本会議において協議し、新しく追加された事業です。概要としては、美しい海岸線や海の幸の魅力を四季折々の「イベントカレンダー」として可視化し、来訪者を町内へスムーズに周遊させる役割を目指しております。課題としては、町外からの誘客動線が弱く、イベント間の連携が不十分な点です。これに対し、カレンダーの可視化、観光協会のホームページや交通拠点での掲示強化、共通ノベルティの検討などを進めてまいります。皆様へは、各イベントの開催情報や参加者の反応などの情報提供及びお食事処やお土産店への回遊連携について協力をお願いしたいと考えております。人を呼び込むシステムができたらなと考えております。 続きまして「愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト」になります。まずＪブルークレジット®の方ですが、現状として６月にドローン空撮による調査を行いました。ホンダワラやマメタワラの繋茂調査を行い、認証申請を行っています。認証数量は、令和５年度 5.9 トン、令和６年度 34.8 トン、令和７年度 33.8トンと推移しております。課題については、購入希望者の確保、申請料の増大、実測データの精度向上です。協力してもらいたいことは、排出量取得の活用や県ゼロカーボン推進課との連携を図っていきますので、クレジット買取り先の紹介や宣伝への協力をお願いできたらと思います。事務局からは以上です。主体から補足をお願いします。
広瀬係長	Ｊブルークレジット®の担当の広瀬です。今年度の状況ですが、マメタワラについて、６月 15 日、16 日にドローン調査、18 日、19 日に一平方メートルあたりの重量調査を行いました。今年度はどの地区も海藻の量が少ない状況です。柏崎・平碆地区は前年の１割弱、家串地区は２割強、油袋地区は８～９割程度で、全体では前年の３～４割程度になる見込みです。要因としては水温などの環境要因、食害、６月上旬の台風の影響などが考えられます。９月中に申請書類を完成させ、JBE に申請する予定です。以上です。
尾﨑主幹	ありがとうございました。同じプロジェクトの「ウニッコリ

発言者	発言内容
	ー」関連になります。ウニッコリーはぎょしょくやツアーとの体験で非常にニーズが高い事業です。課題は、採捕・蓄養・加工のマンパワー不足です。役場職員で行っていることが一番の課題で、品質のばらつきや、水温上昇による放卵の早まりなども影響しております。何より資金面が課題です。対策、協力してもらいたいこととしては、給餌調整による品質向上や、作業人員の追加、体験説明ができるガイド人材の確保が必要です。主体から説明をお願いします。
小山主事	ウニッコリー生産担当の小山です。ツアー体験のコンテンツとしてウニッコリーを実装するに当たり、今年度は、町内の新規採用職員研修や、愛南町水産人材育成事業で南宇和高校の生徒を対象とした講座の実施、愛媛県内のテレビ局「あいテレビ」の取材対応などを行っております。今後も Umidas と連携して、体験コンテンツのアップデートを続けていきたいと考えております。以上です。
尾﨑主幹	ありがとうございました。続きまして「愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト」になります。本事業は Umidas が中心となる「ツーリズム体験」と、愛南町ぎょしょく普及推進協議会が中心となる「出前授業」の２つの柱がございます。ツーリズムは令和７年度実績 17 件、令和８年度は 20 件前後を目標としています。出前授業については令和７年度 116 件と大変活発に実施され、令和８年度も 100 件程度を見込んでおります。課題は人員体制や悪天候時の代替案、旅行会社との連携、受入事業者の本業への影響配慮などです。対策としては、基本的にツーリズム事業になると思いますが、実施体制の構築や旅行会社の確保を進める必要があります。また、町内外への情報発信、旅行業資格を持つ旅行会社とのマッチング、コンテンツ造成及び安全管理に関するアドバイスについて、御協力をお願いしたいと考えております。主体より補足をお願いします。
清水氏(一般社団法人 Umidas)	ツーリズムは Umidas が担当しておりますので清水のほうから補足説明をします。ぎょしょく体験は非常に強いコンテンツだと思います。今週も大阪学院大学のゼミ合宿がありましたが、実際に海で釣った魚をさばいて食べることや、単に食べることだけではなくかつお一本釣りの動画を見てから、生産から流通、加工、消費までの一連の流れを見せることで、参加者から「本物に触れられて良かった」という意見を頂きました。愛南町に来れば現場に触れて体験できることはとても魅力的なことだなと改めて感じましたので、今後もより多くの方に本物を体験してもらいたいと考えています。一方で課題は事業者の負担です。説明のために手を止めてしまうので、少なからず負担

発言者	発言内容
	になっています。どう双方にメリットを持たせるかが今後の課題と考えています。今年取り組んでみたいこととしては、ただ作業場所に行って体験や説明を聞くだけでなく、真珠の作業を手伝ってもらうなど真珠業者へ還元できる仕組みを行うことや、マリンレジャーでも単に遊ぶだけではなく、海岸のゴミ拾いをして海岸をキレイにして帰ってもらうような、愛南町に来て楽しむプラス愛南町にも還元する仕組みを考えていきたいと思っています。以上です。
加藤係長	出前授業について愛南町ぎょしょく普及推進協議会より述べさせていただきます。今年度で 22 年目になります。昨年度は 116 件で参加者数としては約 6,500 人、これまで延べ約８万人の方に参加いただきました。令和４年度より「ぎょしょく教育伝道師」事業として、関東給食会所属の企業による関東の小学校を対象にした授業を実施しております。伝道師候補者に愛南町へ研修に来てもらい、ぎょしょく教育の座学、漁船漁業、養殖漁業の現場や市場のセリ等体験し、愛南町の水産業への理解を深めていただいた上で、関東の小学校でぎょしょく教育を行うとともに学校給食での愛南町産の農水産物の消費増進を図ってもらいます。これまでに13名を認定し、昨年度は約5,000人の児童に授業を行いました。今年度も４名が先月研修に来ており、９月から活動予定です。県内の保育所や学校でも普及できるよう、事務局も PR を行っていきますが、皆様にも PR への協力をお願いします。以上です。
尾﨑主幹	ありがとうございました。五つのプロジェクトの進捗と課題について御説明いたしました。愛南町の海業振興と地域活性化に向け、皆様との一層の連携をお願い申し上げます。 なお、この海業グランドデザインにつきましては、今後も内容を刷新していくこととしております。以上五つのプロジェクトの報告を終わります。
藤田課長	ありがとうございました。議題２の報告につきまして、何か御意見、御質問等はありませんでしょうか。
関根委員	関根です。資料２の「愛南町きらめき海道プロジェクト」のところで、協力してもらいたいことの中に「参加者の反応、課題等の提供」とありますが、この部分で何か具体的な項目とか、こちらが用意するフォーマットのようなものはありますでしょうか。イベントの情報提供だけでなく、イベント主催者側でどのような情報を集めてプロジェクトに反映させていくのか、そのあたりの流れが分からなかったので質問させていただきました。

発言者	発言内容
藤田課長	はい、ありがとうございます。各イベントの情報提供に加え、参加者の反応というのは、アンケート等をとっているかというようなニュアンスでしょうか。
関根委員	はい。イベントがあるという情報の提供だけでいいのか、あるいは参加者の反応などの部分を何かマップなどに反映させるための情報収集が必要なのか、という点です。もし収集が必要であれば、あらかじめフォーマットあればやりやすいかなと思います。
尾﨑主幹	今は、このプロジェクトは動き出そうとまとめている段階であり、御指摘いただいたような課題は、今後改善していかなければならないと考えております。現状、イベントの主催者に「アンケートを必ずしてください」とお願いするのは負担にもなりますので、なかなか調査手段がないのが実情です。
藤田課長	例えば「どこから来られましたか」「愛南町で買い物をされましたか」といった共通の簡単なアンケートができれば皆様にお渡しすることで、Umidasやいろいろなところの波及効果等が調べられると思いますの。イベントがあったときに２、３ページとならないようなアンケートができればいいなという案だと思いますので、今後ブラッシュアップしていきますので、よろしくお願いします。
藤田課長	ほかに御質問はございませんか。
一同	（質問なし）
藤田課長	ないようでしたら、次に議題３「海業に関する意見交換について」、事務局より報告をお願いします。
尾﨑主幹	続きまして、海業に関する意見交換について、資料４を基に御説明いたします。この内容は、本日の会議に先立ち開催されました「運営委員会」での議論の結果を御報告するものです。資料４の１ページ目を御覧ください。愛南町海業グランドデザインは「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台」をコンセプトとしています。柱となりますのが青で囲まれた部分です。まず、愛南海業コンシェルジュ Umidas プロジェクトが中心となり、その周りにインバウンド愛南ツアー生成プロジェクト、愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト、愛南ブルーカーボン創出プロジェクト、愛南町きらめき街道プロジェクトを実施していくこととしております。

発言者	発言内容
	しかし、これらのプロジェクトは、行政単体で進めるものではございません。図の下部にございますように、愛南漁協、久良漁協、南宇和金融協会、㈱フルーツアイランド・マルエム直販、愛南町商工会、愛南町観光協会、愛南町ぎょしょく普及推進協議会、愛南町、そして愛媛大学南予水産研究センター等の学術研究機関まで、「オール愛南」の強力な連携・支援体制の下で取り組んでいくこととしています。 目指す方向性としては中間支援組織として活動する Umidas を中心に据え、各プロジェクトを強力に推進することで、地域経済や社会への明確な波及効果を生み出していくこととしております。 次に、海業のゴールといたしまして長期アウトカムとしては、①愛南町地域経済の活性化(所得及び雇用の増加)、②地域の環境保全と社会課題の解決③地元に誇りを持つ住民が住まう賑わいの維持・発展、の３点を掲げております。これらを達成するため官民が一体となり推進してまいります。 続きまして、２枚目の資料「海業振興によって期待される効果」を御覧ください。こちらは、海業の取組(アクティビティ)が、どのようなプロセスを経て最終的なゴールに至るかを示したロジックモデルとなっております。左側の「事業、アウトプット」からスタートし、段階を経て効果が拡大してまいります。個々の部分は、先ほど別の図でも申し上げましたが、Umidas を中心にプロジェクトを実施していくこととしています。 次に短期アウトカム(取り組みの初期に現れる効果)になります。 五つのプロジェクトを実行することで、まずは以下のような変化が期待されます。町内の特産品や観光サービスの付加価値向上、観光客の増加、水産品や宿泊サービス等の町内取引の拡大、地域への愛着形成、サステナブルタウンとしての知名度向上、将来海に携わる人材の育成にしております。 次に中期アウトカム(数年かけて定着する効果)になります。 これらの初期成果がさらに深まることで、中期的な成果へとつながります。漁業者や漁協、宿泊・観光事業者の直接的な所得や雇用の増加、地域の賑わいの創出、地域住民の愛着と誇りの高まり、環境問題への取組の拡大、海業を支える将来的な担い手の確保にしております。 最後に長期アウトカム(最終的な目標)として、先ほどの資料と重複しますが、最終的には、「地域経済の活性化」「環境保全と社会課題解決」「地元に誇りを持つ住民たちが住まう愛南町の維持・発展」という、愛南町の持続可能な未来を実現できるよう、海業を推進することとしております。 先ほど御紹介した五つのプロジェクトは、それぞれ単独で実

発言者	発言内容
	施するだけでも効果がございますが、プロジェクト同士、あるいは地域内の新たな取組と「掛け合わせる(連携させる)」ことで、相乗効果が生まれ、より大きな成果へと発展させることができると考えております。このロジックを基に「運営委員会」で挙がった具体例としては「愛南ぎょしょくツーリズム」(市場見学やマダイの捌き体験など)と「愛南町きらめき海道」 (時期を合わせた地域イベントなど)の二つを掛け合わせ、Umidas が一体的なツアーとしてパッケージ化・販売することで、単なるイベント参加にとどまらない「観光客の滞在型消費の増加」や、「漁業者・女性部の所得・雇用増」を生み出すことができます。結果として、「地域経済の活性化」へと大きく前進すると考えました。 このような内容を踏まえて、資料３の「海業推進会議運営委員会、議事、概要」の(２)海業に関する意見交換について出席者から出された意見をまとめており、説明いたします。 まず１点目は、企業研修向けの高単価ツアーの構築です。 社員教育に予算を組んでいる企業をターゲットとし、ブルーカーボンについて学ぶ研修ツアーを企画するというアイデアです。これにより、社会人への環境教育となるだけでなく、当町が取得している MEL 認証などのエコラベルをアピールする絶好の機会にもなります。また、「ウニッコリー」の体験や、水産物をふんだんに使った海鮮丼を提供する料理教室などを組み合わせることで、「学び」と「ぎょしょく」を掛け合わせた高単価なツアーとなり、地域の収益向上と環境改善の双方に貢献できるという意見がございました。 ２点目は、インバウンド観光と「きらめき海道プロジェクト」の掛け合わせです。 近年増加している外国人のお遍路さんやサイクリストが、気軽に立ち寄って食事ができるスポットを、国道 56 号線や遍路道沿いに設けるという提案です。そこで提供するメニューを、南宇和高校の地域振興研究部が開発した「真鯛ラーメン」など地元ならではの産品にすることで、観光客はもちろんのこと、地元の高校に愛着を持つ地域住民の方々も足を運ぶようになり、観光客と地域住民が自然に交流するコミュニティの形成が期待できます。 ３点目は、次世代の育成を目指すブルーカーボン「自由研究」です。 海藻に潜む生物の観察やウニッコリー体験を通じ、「海の森」である藻場や海洋環境に興味を持ってもらうという取組です。これにより、将来的に研究者にとどまらず、漁業の経営者や後継者といった「海のエキスパート」を育成できるという視点です。愛南町で新たに水産業を始める人が増えることで、将来的な後継者不足の解消や雇用の創出につながると期待されま

発言者	発言内容
	す。 　４点目は、「ぎょしょくツーリズム」と「きらめき海道プロジェクト」をつなぐ、家族向け釣り体験ツアーです。 　普段は釣りをしない、魚をさばかないといった家族でも気兼ねなく参加できるよう、釣った魚を調理して提供してくれる飲食店との連携を図るというアイデアです。また、対応可能な飲食店や民宿等をマップ化し、ツアーパッケージに連携店で使えるクーポンなどを組み込むことで、町内での購買を促進し、地域全体の収益増加につなげるという具体的な御提案を頂きました。 　５点目は、ブルーカーボンの藻場造成活動を体験に落とし込んだ「オーナー制度」の導入です。 　ヒロメなどの海藻の採苗から種付けまでを体験として提供し、その後の生育の様子を定期的に発信していくというアイデアです。収穫までに何度も町を訪れてもらう長期的な体験コンテンツとなります。このオーナー制は出荷先が確実であるため事業者側も受け入れやすく、カキやヒオウギ貝などの無給餌養殖にも応用できるメリットがあり、事業者の収入安定につながるという効果が期待されます。 　そして最後、６点目は、食のイベントをバージョンアップした「産業まつり」の実現です。 　コロナ禍前まで実施していた食のイベントを発展させ、農林・水産・観光の垣根を越えて、家族で一日中楽しめるイベントにするという意見です。水産物や農産物、マリンレジャーを存分に楽しんでいただいた後、地元の宿泊施設に滞在していただく流れを作ることで、町内での消費がさらに促進されるという波及効果が見込まれます。 　以上のように、既存のプロジェクトを単独で進めるのではなく、掛け合わせていくことで、環境保全、観光振興、後継者育成、地域コミュニティの形成など、非常に多角的かつ具体的なアウトカムが期待できることが共有されました。 　これが海業推進会議運営委員会での意見交換となります。今後も運営委員会を開催し意見交換を行っていく予定ですので、都合が合うときに御参加をお願いします。 　以上で、「(２)海業に関する意見交換について」の報告を終わります。 　次に資料５について、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所から説明をお願いします。
高階氏(一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所)	漁村総研の高階です。今年度も、過年度から引き続き、愛南町の海業の取組について、御協力させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。 　１ページ目を御確認ください。弊所が委託されている業務及

発言者	発言内容
	び業務項目について、それぞれ御説明いたします。 　まず、（１）「愛南町五つのグランドデザインの実装及び改善」についてです。①「グランドデザインに位置付けられる事業の取組や事業の取りまとめ」についてですが、皆様御存じのとおり、愛南町には五つのグランドデザインがございます。この五つのグランドデザインについて、進捗状況の取りまとめを行います。それぞれについて、「進捗状況」「現状」「課題」「協力していただきたいこと」「対策」の項目に沿って整理いたします。この整理に当たっては、各グランドデザインの事業主体の皆様に、引き続きヒアリングをさせていただきますので、御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。 　続いて、②「愛南町海業推進会議等の関連会議への運営支援及び新たな海業案件の事業性評価」についてです。そのうち、(ア)「愛南海業推進会議等の関連会議への運営支援」についてですが、先ほど御説明がありましたとおり、海業推進会議運営委員会が令和８年７月 23 日に開催されました。議題については、海業グランドデザインの各プロジェクトを組み合わせることで、どのような成果が期待できるかという点について、話し合っていただきました。それぞれの進捗報告を行った後、４班に分かれてグループ形式で意見交換を行い、発表していただきました。その結果については、グラフィックレコーディングによって可視化しております。グランドデザインについて、五つがそれぞれ独立して動くのではなく、「各々がどのように連携すれば相乗効果を生み出せるのか」「Umidasをどのように販売していくのか」「愛南町として取り組むべきことは何か」といった視点から、様々な御意見を頂きました。この運営委員会については、今年度あと２回の開催を予定しておりますので、引き続き皆様と協議・検討を進めていく流れとなります。 　続いて、２ページを御覧ください。 　②「愛南町海業推進会議等の関連会議への運営支援及び新たな海業案件の事業性評価」のうち、(イ)「新たな海業案件の事業性評価」についてです。こちらについては、愛南町の特色である「ウニッコリー養殖事業」に関連した体験コンテンツを検討し、実証を考えております。具体的には、農業体験、ウニッコリー体験、愛南市場食堂での昼食、漁協による競りの見学などを組み合わせたツアーを考えております。実施時期については 12 月から１月、日帰りまたは１泊、参加者数は 10～15 人程度を想定しております。ターゲットについては愛媛県内在住者、参加費については、今年度は有償での実施を考えております。協力体制については、Umidas、伊予鉄トラベル様、デジタルテクノロジー四国様、西海観光船、愛南町観光協会様、愛南漁業協同組合、愛南町役場など、関係者の皆様と連携しながら進めていきたいと考えております。また、このツアーについて

発言者	発言内容
	は、ただ実施するだけではなく、ツアー終了後にヒアリング調査やアンケート調査を実施し、ツアーコンテンツの評価や課題、改善点を抽出します。その上で、今後、さらに魅力のあるプログラムにつなげられるよう、皆様と一緒に検討していきたいと考えております。参考として、過年度の実施結果を掲載しております。昨年度についても、デジタルテクノロジー四国様の「みきゃんアプリ」等を活用した取組を実施しておりますので、参考として掲載しております。昨年度は無償でしたが、今年度については、有償での実施を考えております。 　続いて、３ページを御覧ください。 　「漁港施設等活用推進計画の策定支援及び提案」についてです。（２）漁港施設等活用推進計画の策定支援及び提案、（ア）策定に向けた関係者調整、助言、（イ）活用推進計画案の策定支援及び提案、船越漁港における「漁港施設等活用推進計画案」の検討を進めてまいります。ここで、漁港施設等活用推進計画について御説明いたします。こちらの資料については、水産庁の資料から引用しております。この制度は、水産業や漁村の活性化を目的とした制度です。漁港について、従来の漁業上の利用だけではなく、漁港施設区域内の未利用スペース等を活用し、水産物の消費増進や交流促進などの事業を展開しやすくする制度となっています。 　交流促進については、資料の写真にあるような釣り体験や魚のさばき体験など、消費増進については、直売所やレストランなどが対象となります。この制度については、下に示している検討体制の下で計画案を作成していく流れとなります。今年度も、「漁港施設等活用推進計画策定に係る検討会」を開催する予定となっております。 　構成員については右側に記載しておりますので、皆様には御意見、御意向をお伺いしたいと考えております。引き続き、御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。 　続いて、４ページを御覧ください。 　愛南町から委託されている１年間の業務の中で、先ほど申し上げましたとおり、グランドデザインに関するヒアリング調査や、モニターツアーの実施などを予定しております。
藤田課長	ありがとうございました。ただいまの説明に関しまして、御意見、御質問はございませんか。
前田委員	運営委員会でも申し上げたことですが、資料４の最終ページについて、「アウトプット」と「アウトカム」という言葉が出てきます。アウトプットは、「こういうことをやりました」ということで、アウトカムというのは、そういうことをやった結果、地域がどう変わっていったかということを測るような評価

発言者	発言内容
	をしていくという話だと思います。アウトプットで「何人来ました」というのは一つの成果ではありますが、「何人来たことによって地域がこういうふうに変わりました」というところを少し目指して、プログラムを組んでいく必要があるかなと思います。そういうことをお話ししたときに、いろんな旅行業のいろんなメニューを提供するというのは大事なことですが、提供するときに、二つのプロジェクトを連携させてやる場合だと「どういったストーリーをどのように提供していくか」というのが、基本になるかなと思います。 　そういうストーリーについて考えたときに、一つは、提供する側が考えているストーリーがあると思います。そこでは「学び」、何らかの学びがあると、来た人たちが「自分たちが関わった」という達成感が高まってくると思います。 　例えば、ウニッコリーで言うと、「海の課題を解決する藻場の再生につながっていく」というような価値を、どういうふうに伝えていくのか。その事業について評価し、地元として取り組んでやっているということが伝わると、そこに参加した人たちは、「海の改善にも少しつながった」という評価や、自分なりの達成感が生まれてくるような取組を実感できるような形の情報提供ができてくる、ということです。 　来た人に分かってもらうということになると、提供する側も自分にとっての達成感が高まる、あるいは地元のことを理解してもらうことにもつながりますし、自分たちが関わったという意味での地元への愛着を高めることにもつながっていくというような形で、それが結果として「地域で働く」ということにつながっていくことをイメージしたときに、どういうふうなサービスを提供したらいいのかということが考えられると良いかなと思います。 　今度は来る側の立場で考えたときに、提供する人たちにとっても、先ほどの「地域の課題解決に地元の人と一緒に関わってもらう」のように、社会貢献的なイメージを持ってもらえるということもあると思います。これはインバウンドの人たちにすごく効くテーマで、そういうことに関心があるので、実践するような場があるといいかなと思います。来ることによって、これからの海の在り方とかを学ぶ機会があり、そういうことを「学んで、考えて、そこに実践」というようなストーリーを展開できることで、人が単なる交流人口から関係人口に変わってもらうというような取組に変わり、リピートしてもらえるようになるかなと思います。単なる楽しさの提供だけじゃなくて、多分、そういうふうなことをその場で伝えていけるか、ということがあると思います。 　ただ、日帰りだとか１泊２日という短い期間なので、その辺もどれぐらい伝えられるかというのはあると思いますが、この

発言者	発言内容
	ようなことが展開していけるようになると、アウトカムを生み出す、地域の変化を生み出すことにつながってくるのではということを、運営委員会で少し話したところがあります。 　その辺をこれからどう実践していくかというのは、漁港漁場漁村総合研究所のアドバイスを受けながら、やっていかないといけないのかなと思いますが、ぜひそういう形で、そういう思いを持って取り組んでいけると良いかなというふうなことをちょっと思ったので、一言、言わせていただきました。
藤田課長	前田先生、ありがとうございました。ほかに御意見はございませんか。
一同	（質問なし）
藤田課長	ないようでしたら、以上で本日の議題をすべて終了いたします。皆様の御協力により、スムーズに会が終了しましたことをお礼申し上げます。それでは、進行を大野主査に返します。
大野主査	会全体について、何か御質問等はございますか。
前田委員	蛇足になるかもしれませんが、「ふるさと住民登録制度」という、住民票を移さず地域とつながりを持つことができる制度が始まります。海業に関わってくれた人たちに、ぜひこの制度に登録してもらえるような案内をセットで行うと、継続的な関係性が築けるのではないでしょうか。
大野主査	前田委員、貴重な御意見ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、第 11 回愛南町海業推進会議を終了いたします。本日はありがとうございました。